

准看護学校の閉校を偲んで

—母性看護・産婦人科分野の担当講師として2代にわたる関わり—

松本産婦人科医院

松本直樹

歴史ある本庄准看護学校の閉校は大変残念です。これまで多くの卒業生を輩出し、そして彼女たちは地域に貢献する看護師・准看護師として、今なお各所で活躍していることでしょう。このような元生徒を熱心に指導してきた教職員・委任講師・医師会役員の皆さま、長い間お疲れさまでした。

私は2020年（令和2年）度から2024年（令和6年）度までの5年間、2年生の母性看護および産婦人科分野の講義を担当しました。私の父である松本常嘉の退任後、それを引き継ぐ形で講師を委任されました。担当範囲は父の時代と同じでしたが、講義内容やスタイルは引き継がず、教科書を基に新たに年間11回の講義を構築しました。産婦人科学は、イメージがわきにくいなじみにくいと感じやすい分野です。少しでもスムーズに理解が進むよう、教科書のページを追うことや細かいことにとらわれず学習の流れを意識しました。一揃いの講義を聞くだけでこの分野の学習内容を理解できるようなスライドと授業中の解説を組み合わせました。写真や動画を多く盛り込み、また実際に臨床で用いている医療器具などにも実際に触れてもらい、興味を引きつつ理解につながるよう工夫しました。私の都合で休講になった際には、当院の患者さん向けパンフレットを読んで感想を書いてもらったりもしました。生徒たちは予想以上によく考えていてその回答文に感心しましたし、私自身の勉強にもなりました。期末テストは、要点を最終講義で復習し、その中からの二択形式の選択問題としました。全員が合格できるようなテストかつ資格試験につながる内容になるよう配慮しました。このような講師としての5年間でした。はじめに想像していたよりも生徒たちは熱心に講義に臨んでくれました。今後の彼女たちの活躍も楽しみですし、やりがいのある講師を担わせていただいたと感謝しております。

ここから過去に遡り、私の前任である父・松本常嘉医師について述べます。昨年、病を患い執筆が難しい状況になっているため、私の記憶や伝聞をもとに准看護学校との関わりを記します。父は1978年（昭和53年）、本庄市千代田に産科の有床診療所として松本産婦人科医院を設立しました（写真1）。昭和後期から平成前期にかけて地域の分娩需要に応じてきました。私が小中学生だった頃は特に忙しく、月の分娩数が50件近い状況もあったようです。そのような中で1983年（昭和58年）から2019年（令和元年）までの36年間にわたり、父は准看護学校の講師を務めました。さらに内4年間は副校長も務め学校や生徒たちを熱意をもって支えていたことと思います。当時の准看護学校の生徒たちは、その多くが半日働きながら通学し資格取得を目指していました。当院も生徒の一部を雇用し寄宿施設を提供するなどの支援を行いました。現在の当院は分娩を行わない無床診療所ですが、建物はそのままリフォームして使用しています（写真2）。そ

のため院内の一部は当時のまま残されており、利用しない3階の寄宿部屋は昭和の趣のままに残っています(写真3)。父の授業の様子を私が直接見る機会はありませんでしたが、おそらく黒板やホワイトボードに筆記しながらの授業進行だったと思います。また学校の先生方から伺った話によると、解剖模型を用いるなどして生徒がイメージしやすい工夫もしていたようです。試験には記述問題もあり、私の試験より難しい内容でした。いまはパソコン等を利用するのが当たり前ですが、長い間試験問題を手書きで作成していました。相当な労力だったと思います。そして高齢になったこともあり、私が後任を引き受けたことで退任に至りました。

准看護学校の閉校は時代の流れの中で避けられない決定であります。しかしながら地域の医師・教職員・そしてたくさんの卒業生の皆さまにとって大変残念で寂しいことです。これまで学校に関わってこられたすべての皆さまそれぞれの発展とさらに紡ぐ未来を想像し祈念しております。



写真1 以前の松本産婦人科医院



写真2 現在の松本産婦人科医院



写真3 空き部屋として現在も残る3階の寄宿部屋

本庄准看護学校
閉校記念誌

[71 年の航跡]

1953~2025

一般社団法人 本庄市児玉郡医師会

本庄准看護学校